

38	昭57. 3. 10	最近の世帯動向……………	山本千鶴子技官
39	昭57. 3. 17	死亡力の人口学的研究——その2. 戦後日本の死亡力 水準の変動と格差——……………	高橋 重郷 技官
40	昭57. 3. 24	日本における人口の質論のはじまり……………	廣嶋 清志 技官
41	昭57. 3. 31	昭和56年度調査研究実績概要報告……………	各 部 科

## 資 料 の 刊 行

(昭和57年1月～3月)

<資料題目(発行年月日)>

<担 当 者>

○「実地調査報告資料」(昭57. 3. 31)

昭和56年度実地調査 人口移動と定住に関する調査——概報および  
主要結果表……………

岡崎 陽一 技官  
内野 澄子 技官  
清水 浩昭 技官

## 国 際 人 口 学 会 (IUSSP) 理 事 会

国際人口学会(International Union for the Scientific Study of Population)理事会は1982年2月22日から24日までの3日間ベルギーのリエージュ市の国際人口学会本部事務局にて開催された。1981年12月15日のマニラ大会総会における会員の投票に基づき、副会長、事務総長及び9名の理事が選出されたが、今回の理事会は新しい陣容による国際人口学会最初の理事会であった。出席者は次のとおりである。

Mercedes B. Concepcion (フィリピン), 会長

William Brass (英国), 副会長

George P. Tapinos (フランス), 事務総長

John C. Caldwell (オーストラリア), 理事

Kweku T. de Graft-Johnson (ガーナ), 理事

Jerzy Z. Holzer (ポーランド), 理事

河野稠果 (日本), 理事

Henri Leridon (フランス), 理事

Guillermo A. Macció (ウルグアイ), 理事

Samuel H. Preston (米国), 理事

Dirk J. van de Kaa (オランダ), 理事

(以上アルファベット順)

Bruno Remiche (ベルギー), 事務局長

エジプトの Roushdi A. Henin 氏は所用のため欠席した。

理事会は、前回第19回マニラ大会の回顧、第19回マニラ大会に提出した「国際人口学会の将来」という報告の検討、会費と配布ジャーナルの選択本数に関する決定、予算報告、資金集めの必要性、次回大会開催地の選択と組織委員の選考、専門コミティとウワーキング・グループの選定と委員長を選考、新入会員の選考等に関してであった。

次回の大会の開催地は、フィレンツェの郊外が有力であるが、フィンランド政府はヘルシンキを押ししており、まだ100%フィレンツェに決まったわけではない。というのは、両国（イタリアとフィンランド）が負担する財政援助の規模と具体的なロケーションが今一つ確定的でないからである。しかし、理事会としては、イタリアを次回の開催国とすることに異存はなかった。

専門的活動として、国際人口学会は、次の四つの委員会（コミティー）を設立することに合意し、また六つの作業部会（ウワーキング・グループ）を置くことに決定した。

#### 専門委員会

- 1 出生力委員会
- 2 死亡分析委員会
- 3 人口変動の経済的効果に関する委員会
- 4 家族人口学 (Family demography) 委員会

#### 作業部会

- 1 国際人口移動
- 2 データの収集・補正
- 3 マイクロ・デモグラフィ
- 4 人口政策のための人口学の知識の利用
- 5 歴史人口学
- 6 人口学の教授・教育

以上の委員会・作業委員会の名称は、今後多少変更する余地がある。委員長・部会長の選任も行われ、現在と交渉中である。

なお、以上の専門委員会のほかに、財務委員会が設けられ、河野稠果がそのメンバーの一人に選ばれ、日本における醸金活動等に従事することになった。

(河野 稠果記)